

令和4年度 学校評価結果公表シート

学校法人 東英学園

認定こども園 東雲幼稚園

1 本園の教育目標

1. 心身が健康で明るい子に育てる
2. 自分で考えたり、工夫したり自主的な行動のできる子に育てる
3. 誰とでも仲良くし、思いやりのある子に育てる
4. 心の束縛を解き、自由を与えながらきまりのある子に育てる

2 本年度、重点的に取り組む園内研究主題

(テーマ)

保育者や友だちなど、周りの人に親しみをもち、自ら人と関わる力を養う。

(ねらい)

新型コロナウイルス感染症感染拡大により、人と密に関わることが難しい中、保育者や友だちと様々な関わり方を通じて、お互いの思いや考えなどを共有したり、共にいきいきと活動することの充実感を味わうようにする。

3 幼稚園における学校評価の目的

1. 目標設定→取り組み→評価によって組織的・継続的な改善を図ること
2. 適切に説明責任を果たし、幼稚園・家庭・地域の連携協力による園づくりを進める
3. 設置者等が評価結果に応じて改善措置を講じ、教育の質を保証し向上を図ること

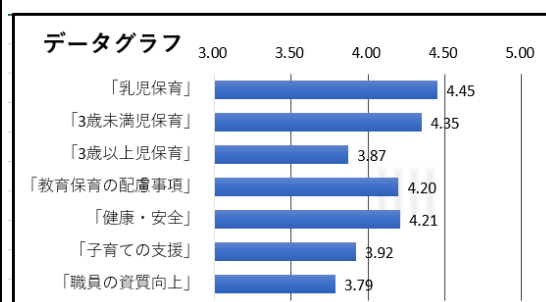
4 学校評価 実施一覧

	種類	実施時期
①	自己評価	令和4年12月
②	保護者アンケート	令和4年12月
③	学校関係者評価	令和5年2月
④	第三者評価	令和5年2月

5 ①教職員による自己評価の結果

～幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育者支援のための自己評価ワークシートによる～
データ集 (5段階)

内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	4.45
「3歳未満児保育」	32	4.35
「3歳以上児保育」	53	3.87
「教育保育の配慮事項」	16	4.20
「健康・安全」	29	4.21
「子育ての支援」	18	3.92
「職員の資質向上」	9	3.79
計	172	全体平均 4.10



① 自己評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
第2章第2節 乳児期の保育 (評価平均4.45)	子どもが生涯にわたる人間形成にとって、極めて重要な時期である乳児期に、その生活時間の大半を過ごす場である園で、十分に養護の行き届いた環境のもとに、くつろいだ雰囲気の中で、一人ひとりの子どもたちがのびのびと安心して楽しく過せるよう、保育者は受容的・応答的な関わりに努めている。3学期は個々の振り返りを通して、更に子ども達と丁寧に関わっていききたい。
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育 (評価平均4.35)	1歳児も2歳児も基本的な生活習慣の自立に向け、日々、丁寧に経験を積み、すくすくと成長できるよう、保育環境を整え、計画を立てて保育する必要があると感じている。年間を通じて外遊びや水遊び、廃材遊び・リトミックなどを通じて、表現するということが豊かに育っていることは評価できる。今後は、子ども達の声を拾って保育に繋げていくことが課題である。
第2章第4節 満3歳以上の園児の保育 (評価平均3.87)	今年度は外遊びや水遊びが毎日思い切りできた。色々な素材にも触れ、思った形で表現できていた。今年はコロナ禍3年目ということもあり5領域「人間関係」という領域に力を入れてきたが、日々の保育の中で、思いやりや協調性などが育っていきけるよう、日々丁寧に関わってきた。3学期は、進級・就学に向け、見通しを持って生活する力の育成も力を入れていきたい。
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項 (評価平均4.20)	園児一人ひとりの健康状態・精神状態をいつもきちんと把握し、問題がある場合は家庭と密に連携をとって生育環境の背景取りをしたりする必要がある。また、公認心理師（園独自で今年度より契約し、定期的に来園）や市健康推進課と連携をとりながら、就学に向け、関係機関に繋がたり、保護者と面談をしたりしている。また今年度も年間を通して、新型コロナウイルス感染予防に努め、日々のマスク着用（3歳児～）や手洗いうがいの励行を促し、自分の身は自分で守れるよう、指導、支援してきた。今後は、来年度5月の「5類への引き下げ」に向けた対策をとり、日々、安全安心の園生活が送れるよう、努めていきたい。
第3章 健康及び安全 (評価平均4.21)	今年度は新型コロナウイルスの影響で、密を避け、年間を通じて外で遊ぶ機会を多くとった。例年よりも健康的に過ごした。また、カミカミセンサーで咀嚼する大切さを感じたり、「口ばかん」を改善するべく、日々、「あいうべ体操」をしたり、毎月17日前後に「食育」に関する絵本を各クラス読んだり、食育だよりを通じて家庭とも「食」の大切さを共有し、連携をとれるようにするなど「食育」にもかなり力を入れることができた。
第4章 子育ての支援 (評価平均3.92)	コロナ禍で人と関わる機会が減っているため、保護者支援に更に力をいれていかなければならないと実感・反省している。
第5章 職員の資質向上 (評価平均3.79)	教員一人ひとりのキャリアアップを見据え、年間の計画を立てて研修を受けていきたい。一方で、コロナ禍で今年度は外部の研修会はほとんど受講できなかったが、園内研修や講師を呼んで、本園にて何度か研修会を開催できたので、来年度も続けていきたい。また今年度は幼小接続（幼児教育と小学校教育の架け橋プログラム）について県の幼稚園教育課程研究協議会にて発表をする機会を得、6月には、弘前大学の先生をお招きして幼小合同研修会を実施することができたので、来年度以降も継続していきたい。 また、毎年行っている分野別研究も、メンバーを変えて、取り組むことができているので、保育現場にその学んだ内容を活かしていきたい。

また、項目ごと自己評価の他に、自由記述で、各自、自らの保育の振り返りをし、PDCA サイクルにのっとり、P (Plan…計画・課題) と D (Do…実践・行動) をそれぞれ挙げた。

そしてそれぞれの課題について、日々、振り返り、C (Check…再評価・確認) し、確認した中から、達成できなかった原因を探り、新たな課題を提起してみるなど、3 学期、ひいては次年度へとつなげていけるようにしている。A (Action…改善・修正) その際、自己課題が達成されず、悩むことがあるかも知れないが、その場合は同僚の教諭・保育士、同じクラスの担任、又は子どもたちの年齢が近いクラスの先生や、昨年度の担任、或いは副主任や主幹教諭など、色々な人に相談したり、アドバイスをもらうということも勧めている。(同僚性の醸成)

6 ②保護者アンケートの結果

1 園の管理運営について

A=3, B=2, C=1 の3段階での評価の平均値

	内 容	平均値	R3
1	園の環境整備や美化に努めている	2.9	3.0
2	施設・遊具の安全対策を行っている	2.9	2.8
3	園の施設や設備を有効に利用している	3.0	2.8
4	外部からの不審者の侵入などに対して安全対策を行っている	2.6	2.5
5	地震や火災などに対して避難訓練や安全対策を十分行っている	2.9	2.8
6	教育方針をわかりやすく伝えている	2.9	2.8
7	保育を参観する回数が適切である	2.5	2.6
8	家庭や連絡や保護者との連携が積極的に行われている	2.8	2.8
9	地域や保護者の意見に応えようとしている	2.7	2.9
10	地域に開かれた幼稚園づくりを行っている	2.9	2.9

2 教育活動について

	内 容	平均値	R3
1	子どもは教育目標の姿になっている		
	①心身が健康で明るい子	2.9	3.0
	②自分で考えたり工夫したり自主的な行動のできる子	2.7	2.9
	③誰とでも仲良くし、思いやりのある子	2.8	2.8
	④心の束縛を解き、自由を与えながらきまりのある子	2.8	2.7
2	子どもの様子を連絡帳、園だよりやブログなどで知ることができた	3.0	2.9
3	遊びを通してルールを学んだり我慢したりといった経験を積めるような工夫をしている	2.9	2.9
4	子どもは喜んで幼稚園に通っている	2.9	2.9
5	命の大切さや社会のルールを守る態度を育てようとしていると感じられた	2.8	2.9
6	子どもに良い習慣や態度が身につくようにしていると感じられた	2.8	2.9
7	一人ひとりの子どもを大切にしようとしていると感じられた	2.9	2.9
8	子どもの心身の健康や悩みなどを気軽に相談できた	2.9	2.9
9	教職員は協力し合って保育にあたっている	3.0	2.9
10	保育室や園全体に子どもの活動や季節に合った保育の工夫が感じられた	3.0	2.9

7 ②保護者アンケートの結果を踏まえて

課題	具体的な取組方法
1 「4 外部からの不審者の侵入などに対して安全対策を行っている」について	毎年、評価値が低い結果となっている。本園は、園舎を囲む柵はあるが、田んぼに囲まれ、隣地の私有地と交差している為、施錠ができず、3年前より防犯カメラとセンサーライトを玄関、園庭、園舎裏側の保育室の数カ所に設置し、職員室で周囲の状況を監視している。更に、園舎玄関は、園児の登降園時、外遊び時以外は施錠し、外部からの来客等はチャイムを設置することで対策をとっている。また、毎年温湯駐在所や黒石警察署員のご協力を得て、不審者対策訓練を実施し、避難の仕方や先生方による防衛策を訓練している。

課題	具体的な取組方法
「7 保育を参観する回数が適切である」 「9 地域や保護者の意見に応えようとしている」	他の項目と比べ、低い評価値となった。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、保護者に保育を直接見て頂く機会は以前に比べて減っている。しかし今年度は「フリー参観」という形で期間を一週間設け、参観者数が密になることなくクラスの作品展示や子ども達の様子を見て頂くことができた。2月にもお店屋さんごっこに向けて子ども達が準備したお店屋や製作物を、事前にフリー参観で見て頂いた。その他、日々のブログやクラスだより、ポートフォリオや保育ドキュメンテーション（保育の様子を写真付きで記録したもの）の発行や掲示により、普段の子ども達の興味・関心やクラス活動を「見える化」し、できるだけ分かりやすくお伝えしたいと職員間でも共通理解を図り、研修を積んでいるところである。今年度は初めてねぶた絵師の保護者やPTA、オヤジの会のご協力で、園独自のねぶたの製作・運行ができた。幼小連携の活動の一環として東英小学校の小学生にも、また保護者や地域の方々にもご観覧頂き、子ども達にとってもとても良い経験となった。
2 「1②自分で考えたり工夫したり自主的な行動のできる子」	園の教育目標のうち、この項目は評価値が低かった。本園の教育方針で目指しているところは、“大人の言うことを聞く子を育てるということに決して重きを置いているのではない”ということ。人のお話をきちんと聞けるということはもちろん大事だが、身近な環境に主体的にかかわり、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したり、時には悩んだり失敗したりしながら諦めずに最後までやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動できるようになることを目指している。また園の集団の中でお互いに認め合うことで自己肯定感（自分は愛され、価値がある大切な存在だと思える感情や感覚、「どうせ自分なんか」と思わず、粘り強く最後まで頑張る力、お友だちと折り合いをつける力など）が育つ。テストの点数などでは表せないこのような力を、日々のお友だちや先生との関わりの中で育てている。
（自由記述欄より） お遊戯会への参観が、年長組保	ここ近年、未満児と以上児のお遊戯会を分けて開催したりと対策をとり、この度は完全入れ替え制で人数制限の上、実施する予定でし

<p>護者のみに限定され、子どもも悲しんでいた。</p>	<p>たが、コロナ感染拡大防止の為、幾度かの延期の末、残念ながらこのような実施の仕方になってしまった。そこで初めて業者さんに依頼して撮影したDVDを全ご家庭に無料で配布させていただいた。来年度こそは、感染対策をしながらも直接見て頂けるようになると良い。</p>
------------------------------	--

その他、自由記述では、「先生たちが皆、一生懸命で、子どもたちを大切にしていることが感じられ、日々とても感謝しています。ブログや連絡帳で書き込みや記入が少ないときなどは、園で子どもがどうしているか気になるので、コロナの関係で難しいかと思いますが、直接園に見に行く機会がもう少し欲しいと思います。いつも先生方、ありがとうございます！」等々ご意見を頂きました。参観の回数については上記にもありますが、今後、様々な方法で増やしていきたいと考えております。

8 ③学校関係者評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

実施日：令和5年2月21日（火）10：00～／11：00～

評価者：本学園理事会（出席者4名）並びに評議会（出席者7名）において、本園教職員による自己評価と保護者アンケートの結果を報告し、以下のような評価、ご意見を得た。

<p>ウィズコロナの時代、人との密な交流が難しい今、幼稚園生活の中で、いかに、様々な人と色々な交流をして、人と関わることの楽しさを味わい、自分や人を信じていることができるようになるか、ということは重要で、今年度の園内研究テーマに「人間関係」を掲げ、全クラスで取り組んでいることが大変評価できる。自己肯定感を育てると共に、人と協力しながら共にいきいきと活動することの充実感を味わえるよう、今後も、豊かな教育・保育を進めていただきたい。</p> <p>また保護者アンケート結果をもとに、評価できることは受け止め、低評価の項目は改善を進めて頂きたい。特に保護者の参観日や園行事への参加の回数が減っていることについては、今後も工夫を重ね、感染対策をしながら「開かれた園運営」の具体策について考案するよう努めて欲しい。</p>
--

9 ④第三者評価について

実施日：令和5年2月21日（火）10：00～12：00

評価者：弘前大学教育学部学校教育講座幼児教育教室 助教 武内裕明先生

評価方法：評価者が、全園児によるオープン保育「お店屋さんごっこ」を、教頭より説明を受けながら参観し、5領域『人間関係』の観点から、各年齢ごとにまとめた評価項目（43項目）【参考：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』】に添って◎○△で表し、コメントを付けて報告書をまとめた。また、総括欄に「優れた点」と「改善できる点」として挙げたものを以下に記す。

【優れた点】

<p>保育者たちは子どもを受容し、応答的に対応することが参観の限りでも十分に確認でき、子どもたちとも良好な関係を築いていることが、保育者に対する伸び伸びした関わりからも裏付けられる。集団生活の中でも意図的に縦割りの関係を築いたり、子どもの自発的行為を大切にしたりする様子からは、集団生活の指導と子どもの主体的な活動の尊重の両立をしようとしているものと評価できる。地域など身近な関係を越えてより広い関わりにも視野を広げる教育が行えていることは素晴らしい点である。新型コロナウイルス感染症対策の影響もあり、異年齢の子ども同士で関わる機会は限られていたようであるが、そういった制約の中でも集団ならではの楽しい活動を用意し、子どもたちが人との関わりを楽しい活動のなかで学ぶ機会を用意しようとしている。保育者に萎縮せず物事を進め、自分の判断で保育者や子どもと関わっている</p>
--

